

両津大川を巡る

住民の方がガイドとなって地元の集落を案内する「さどんぼ」。アース・セレブレーションの佐渡体験プログラムにもなっている、「両津大川 絵になる絵のある農漁村・版画の村散策」を、インターンシップで市役所に就業体験に訪れた学生さん2人が、広報活動の体験として取材しました。地元のガイド(今回は特別に3人)の方々と「村が丸ごと美術館」といわれる両津大川を散策し、町並みを思う存分満喫しました。



版画があふれる大川の町並み

両津大川には、至るところに版画が飾られています。その版画の題材となっているのは、両津大川の昔の様子や年間の行事など、いずれも両津大川に関するものようです。

昔、大川分校として使われていた校舎を利用して、版画、昔の写真、昔使われていた道具を飾り、美術館みたいにしていました。

ガイドの方は、「お盆などになると佐渡を離れている若者も帰ってきて、ここに来てくれる」と話されていました。この版画は、両津大川の方々の生活の一部になっているようでした。



津神島のお地蔵さんに 込められた願いとは

赤い橋を渡っていると、お地蔵さんがありました。ガイドの方のお話によれば、昔、北前船の風待ち港として栄えた大川港で、大波で危険になった船を綱で止める作業中、大川の若者が岩と船に挟まれ亡くなってしまったという悲劇が二度と起きないようにと、海の近くにお地蔵さんを作ったそうです。この他にも、町を歩いているといくつかの石碑がありました。この石碑は、昔、両津大川では大火がよく発生していたため、もう起きないようにという念がけのために作ったと聞き、両津大川の方々は住民一人一人の命をととても大事にされていると思いました。



お問い合わせ (一社) 佐渡地域観光交流ネットワーク ☎0259-67-7995

佐渡市・国分寺市ジュニアサマー交流会が開催されました



トキ模型作り

7月26日(土)から29日(火)にかけて、佐渡市・国分寺市ジュニアサマー交流会が開催され、両市の小・中学生計26人が参加しました。

悪天候が心配されましたが、日程の後半には天候が回復し、参加者は海での体験を存分に楽しみました。

その他、そば打ち体験やもの作り体験、交流バーベキュー等、4日間にわたる日程の中で子どもたちは交流を深め、お別れの時には最後まで握手をし、手を振ってお互いに別れを惜しんでいました。



ジェットスキー、バナナボート体験